

体育分野における授業の効果的な指導法 指導形態や場の工夫

I 主題設定の理由

中学保健体育部会では、体育分野における授業の効果的な指導法に視点をあて、個々の身体能力に応じた学習形態や生徒が集団活動を通じてコミュニケーション能力を育成すること。筋道を立てて練習や作戦を考え改善方法などを互いに話しあう活動などを通じて、論理的思考力を育成するため、「指導形態や場の工夫」についての研究を行ってきた。本年度も「指導形態や場の工夫」を研究の柱に、各校で課題を設定し、その解決に向けて継続して研究することが望ましいと考え、本主題を設定した。

II 研究の内容

1 研究のねらい

- (1) 授業実践を通して指導形態と場の工夫を考える。
- (2) 先進校の実践（資料）や各校での実践を通して情報交換を行い、研究していく。

2 研究の概要

- (1) 年間2回の授業研究を通して、指導形態や場の工夫について考える。
〔11月「ハンドボール」塩山中学校 大澤 祐子教諭〕
〔2月「バレーボール」勝沼中学校 三枝 まり子〕
- (2) 各校による指導形態や場の工夫についての取り組みや実践を通しての情報交換、先進校の文献や資料等を参考に研究をおこなう。

3 授業実践：1

- (1) 単元名 球技「ハンドボール」（中学1年生）
- (2) 授業者 塩山中学校 大澤 祐子教諭
- (3) 指導構想
「個人やチームの課題解決のための練習を工夫し、高まった技能でゲームを楽しむ」
- (4) 指導形態の工夫
 - ・授業の流れを「目標確認－基本・課題練習－ゲーム－振り返り（評価）」とし、前時までの反省を生かして課題を設定し、練習に取り組みさせる。また、教師主導の学習や生徒主体の課題解決学習を入れることによって、効果的な練習方法を提示し、学習させ、個人及びチーム力を伸ばしていけるようにする。

- ・ハンドボールの動きをとらえさせるために、中学体育実技の教科書を活用したり、ハンドボール部による基本動作の実技演習などを取り入れ運動のイメージ化を図る。また、教師が率先して生徒の変化を見取り、全体の場で成長や頑張りを認めるようにする。

(5) 場の設定の工夫

- ・運動量を確保するために、ハンドボールコートをもつて2面つくる。パスコースの入り方、ミスが少ないキャッチをするための動きをイメージするために、ラインやマーカーを使い、動きのイメージをつくる。
- ・技能の段階に応じて、コート広さ、ルール等を工夫してゲームや練習ができるようにする。

授業実践：2

(1) 単元名 球技「バレーボール」(中学2年生)

(2) 授業者 勝沼中学校 三枝 まり子

(3) 授業構想

「持っているスキルの程度を把握させ、個人技能の課題解決をしていきながら、協力してチーム力を向上させていけるよう、互いに観察し、助言できるようにする」

(4) 指導形態の工夫

個人やチームの課題解決のための練習スペースをつくり、段階を踏んで練習に取り組みせていく。作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにする。

(5) 場の設定の工夫

ソフトバレーボールコートや、レクレーションバレーボールを使用することで練習に取り組みやすい環境をつくる。また、ボールへの恐怖感を和らげ、積極的にプレーできるようにする。

III 成果と課題

効果的な指導法として「指導形態や場の工夫」に視点をあて研究を行ってきたが、学校独自の指導方法や教材の使用、施設の利用など、特色ある授業形態を学ぶことができ、とても充実した研究になった。各校がそれぞれの場の工夫と、さらに学習資料を有効的に活用することで「場」が活性化された。また各校の実践を通しての情報交換をすることで、個に応じた学習形態など、指導法にもフィードバックすることができた。これにより生徒が意欲的に取り組む姿勢にもつながり、とても良い成果が得られた。

今後は、個を生かし、生徒一人ひとりが明確な課題を持って授業に臨むために、生徒自らが基礎レベルをしっかりと把握することが必要になってくる。個や集団の技能習熟に応じて、さらに具体的な課題を設定し工夫した授業展開をしていきたい。

[部長 三枝まり子]